（仮称）北烏山 一七丁目 緑地づくりニュース

今号の目次

P1 第2回ワークショップについて
P2-3 第1回ワークショップ開催報告
P4 オープンフォレスト開催報告・今後のスケジュール

第13号
令和8年（2026年）10月発行
発行者
世田谷区
みどり33推進担当部
公園整備利活用推進課

オープンフォレスト開催報告 10月2日（金）-3日（土）

2日間で約200名の方にご来場いただきました。

「KITAKARA CAFE（利活用プロジェクト）」では、お茶を楽しみながら参加者同士で交流し、「緑地でやってみたいこと」や「緑地や地域のためにできること」について、さまざまなアイデアやご意見をいただきました。今後は、オープンフォレストでの社会実験の実施に向けて、検討会を開催する予定です。

森づくりプロジェクトでは、オリエンテーションとして緑地内を歩きながら各ゾーンの特徴や課題を観察し、森の再生に向けた課題や方向性を共有しました。参加者には「森びとnote」を配布し、それぞれが気づいたことや感じたことを記録していただきました。今後も、一人ひとりの発見や学びを大切にしながら、森づくりの活動を進めてまいります。


KITAKARA CAFE（利活用プロジェクト）


森づくりプロジェクト オリエンテーション


わくわく外遊び


自然観察ツアー

緑地づくりの今後のスケジュール

緑地づくりプログラム

設計ワークショップ	緑地の将来像を考え、専門家と一緒に具体化していきます	11/7（土） 1/30（土） 4/24（土） 6/12（土）
森づくりプロジェクト	緑地の将来を考え、森を育てていくメンバーを募集します	12/4（金）、5（土） 1/16（土） 3/27（土）
利活用プロジェクト	緑地の使い方を考え、実践していくメンバーを募集します	4月以降は決定次第お知らせいたします ※詳細については、都度お知らせします
オープンフォレスト（緑地開放）	緑地とふれあい、遊びや体験など楽しみながら自由に過ごせます	

いまココ（令和8年10月）

事業

令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）	令和10年度（2028年度）	令和11年度（2029年度）以降
基本設計	実施設計	北側エリア 整備工事 / 南側エリア 実施設計	北側エリア 開園 / 南側エリア 緑地整備・順次開園

▲基本計画策定（令和８年５月）

広報など（アンケート、ニュース、ホームページ、SNSなど）

最新情報はこちらから

緑地のようすやイベント案内、ワークショップなどの情報をお伝えしています。

緑地ポータルサイト X Facebook Instagram

編集：ＵＲＬＫ・Ｌ＋・ＲＦＡ・ななつのこ特定委託共同企業体

基本設計に向けた区民参加の緑地づくりプログラムがスタートしました！

check!



（仮称）北烏山七丁目緑地では、設計や運営の具体化に向けた検討を進めています。9月26日（土）には、第1回基本設計ワークショップを、10月2日（金）、3日（土）にはオープンフォレストを開催いたしました。引き続き、ワークショップやオープンフォレスト、森づくりや利活用プロジェクトなどの取り組みを重ねながら、区民の皆さんとともに緑地の将来像をつくり上げていきます。皆さんのご参加をお待ちしています。



参加者募集

第2回ワークショップ テーマ「生きものと人の居場所づくりを考えよう！」

令和8年
11月7日（土）
13:30～16:00

烏山北小学校ランチルーム
お申し込み/定員
申込フォーム（QRコード）または電話、先着40名

お申し込みはこちら
募集締切
10月30日（金）
※参加にあたり配慮が必要な方はお申し込みの際にご相談ください。

ひととき保育（託児）

専門スタッフによるお子様のお預かりも可能です。
対象は、生後5か月以上の未就学児です。希望される方は、10/30（金）までにお申し出ください。（先着5名、無料）





1回目から続けて参加の方はもちろん、2回目からの参加も可能です。お気軽にご参加ください。

お問い合わせ
世田谷区みどり 33 推進担当部
公園整備利活用推進課公園整備利活用推進担当
TEL：03-6432-7911 FAX：03-6432-7989
区HP

音声コード（Uni-Voice）

第1回 ワークショップ開催報告

テーマ
100年後も地域の誇りとなる緑地を考える
過去と未来をつなぐ年表をつくろう！

令和8年
9月26日（土）
参加者
37名
場所
烏山北小学校ランチルーム



主なプログラム
- （仮称）北烏山七丁目緑地のこれまでの取り組み
- 今年度の各種取り組みと実施スケジュール
- グループワークと発表

基本設計ワークショップは、基本設計（案）の取りまとめに向けて全5回の実施を予定しています。第1回では、地域や緑地のこれまでの歩みを振り返りながら、100年先を見据えた将来像を考える「トリの目」の視点で意見交換を行いました。今後は、生きものと人の双方の視点で緑地の機能や活動を考える「ムシの目」の視点、緑地を支える基盤環境に着目する「ミミズの目」の視点も取り入れながら内容を深めるとともに、さらに、緑地との関わり方や育てていく仕組みについても検討し、基本設計（案）を取りまとめていきます。

1 トリの目（緑地のこれまでと将来像）
2 ムシの目（生きものと人の活動）
3 ミミズの目（土・水・資源の循環）
→ 基本設計（案）のとりまとめ

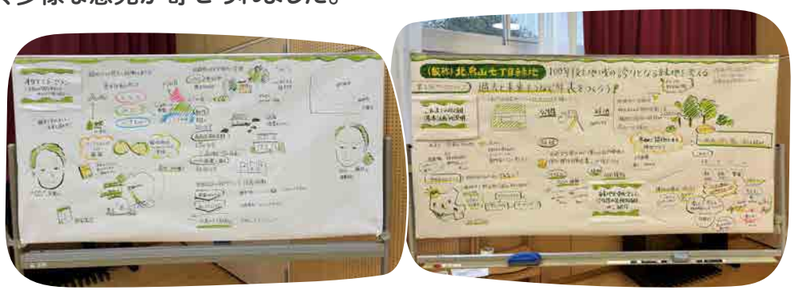
設計ワークショップの流れ



当日は37名の方にご参加いただき、7つのグループに分かれてワークショップを実施しました。冒頭では、基本設計を担当する専門家が、「くらし」「みどり」「生きもの」の視点から、本緑地や北烏山地域の歴史と特徴を紹介しました。

その後、地域の歩みをまとめた年表を囲みながら、将来どのような緑地であってほしいか、未来に残したいものや大切にしたいことについて意見を交わしました。各テーブルでは活発な議論が行われ、参加者からは、北烏山地域や本緑地に対する思いや期待など、多様な意見が寄せられました。





当日のグラフィックレコーディング

拡大版のグラフィックレコーディングはこちらから

グループワーク 「トリの目で緑地の未来を描こう！」



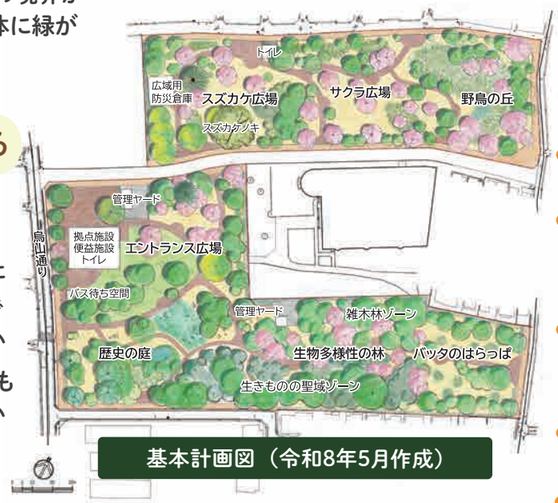
今回のワークショップは、「過去と未来をつなぐ年表をつくろう！」をテーマに、「過去100年の北烏山で大切に思うこと」「今後100年のあいだで見えてくる理想の姿」について活発に話し合いました。主な意見をご紹介します。

緑地の将来像
- 将来の維持管理を見据えて、最初から作り込みすぎない
- 緑地の北と南で性格をわける（北は人が快適に過ごす、南は生きものが主役など）
- 短期的には人の手が入っているかわからない自然な姿が維持され、長期的には緑地と住宅の境界があいまいとなり、まち全体に緑が広がっていってほしい

人と自然がつながるくらし
- かつて樹林地が多く畑が身近で自然や生きものが生活と一体となっていた
- 自然と暮らしが混じり合う新たな価値観、自然との付き合い方を発信したい
- 緑地で土や水、木と触れ合い・学びの価値を地域にも広げていく

生きものとの共生
- 生物多様性の観点から周囲の環境とつながった緑地にする
- 緑地に生息している生きもの層を観察・記録し、過去のデータと比較することで、将来絶滅危惧種が発生しないような環境を考える

誰もが楽しく過ごせる
- 昔は人と人のつながりがあった
- 子どもが自由に遊んでいた
- 赤ちゃんからお年寄りまで過ごせる場になってほしい
- 車いすや体が不自由な人も関われる場になってほしい
- 大人も子どもも遊び心を発揮できる場所へ
- 世代を超えた交流や、年齢が違う子ども同士で遊べる場に
- 多世代交流、世代でカテゴライズされずに交流できる場
- 大きな縁側や木陰で季節を感じながら読書やぼーっとしたい
- 多世代交流としてラジオ体操や園遊会



基本計画図（令和8年5月作成）

地域とのつながり
- 寺町や農村のコミュニティ（つながり）、交流の文化を後世にも残したい
- 周辺の農地や社寺林と一緒に発展していきたい
- 農のある環境が存続するために新しい農業政策をつくる

みどりの魅力や資源
- 100年後も残る新たなシンボルをつくる
- 緑陰など緑の豊かさを残していくために植樹し、樹林を更新していく
- 五感で感じる緑を残したい（水の音、匂い、靄（もや）、癒し効果）
- 緑地の「水」資源を活かす（宙水・井戸など）
- 「水」のきらめきを増やす

地域の防災機能
- 緑地の資源を活用し、災害時に役立てる
- 広域防災倉庫ができることで、地域の誰もが参加できる防災訓練などに取り組めるとよい

新技術の活用
- 自然との共生に向け、AI技術を活用しながら緑地を管理していく
- AIやロボット技術の発展により、人々が頭脳労働から解放された時間を使って緑地の維持管理に関われる未来

設計者からコメント
基本計画を踏まえ、緑地に対するさまざまな視点からのご意見に加え、「AI」など未来を見据えたキーワードも数多く挙げられました。今後は、こうした意見をもとに、緑地の具体的な空間づくりや使い方について検討を深め、基本設計を取りまとめていきます。